

科目名		コーディネート実習Ⅲ			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通しインテリアコーディネーター資格の取得を目指す 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかり理解する 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する 3. インテリアコーディネーター資格試験対策 4. 講義→練習問題→解答→過去問題→解答→解説を繰り返すことで習熟度を上げる			
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネータ資格試験合格に向けての対策講座です。重要キーワードの解説と問題演習を行い合格へ向けて、知識を高めます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①インテリアコーディネーターハンドブック上・下、 ②インテリアコーディネーター一次試験過去問題集上・下			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	第1章 インテリアコーディネーターの誕生とその背景 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
2	第2章 インテリアコーディネーターの仕事 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
3	第3章 インテリアの歴史 日本 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
4	第3章 インテリアの歴史 西洋 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
5	第5章 インテリアエレメント (家具) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
6	第5章 インテリアエレメント (造作部品) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
7	第5章 インテリアエレメント (窓装飾) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
8	第5章 インテリアエレメント (カーペット) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
9	第5章 関連エレメント 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	評価テスト			資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に取り組む。インテリアコーディネーター学科試験でも出てくる分野を、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			